

農学生命科学部

第15回 研究推進セミナー

【第23回 発生・生殖生物学研究室コロキウム 共催】

【新学術領域研究 配偶子産生制御 共催】

雌雄同体における性配分理論の実験的検証： ～新たなモデル生物 *Macrostomum lignano*～



演者：関井 清乃 先生

弘前大学農学生命科学部生物学科

ポスドク研究員

日時：平成28年1月21日（木）

17:40～19:10

場所：弘前大学農学生命科学部402室

オスでもあり、メスでもある。このような雌雄同体の生物は、生殖に使えるエネルギーをオスとメスのどちらの性にどれだけ配分するかを適切に決め、より多くの子孫を残そうとしています。性配分理論 (sex allocation theory) は生物が限られたエネルギーをどのように投資しているのかという問題に対し、多くの説得力のある説明を与えてきており、進化学の分野においてはとても成功した理論とされています。

本セミナーでは、性配分理論について簡単に紹介し、近年新たなモデル生物として注目されている雌雄同体の海産無脊椎動物 *Macrostomum lignano* を用いて、性配分理論の前提であるオスとメスのトレードオフについて実験的に検証した結果についてお話ししたいと思います。透明で体内器官の観察がしやすく、いろいろな実験的手法が確立されているこの生物に興味をもっていただけたらうれしいです。

主催：農学生命科学部生物学科 発生・生殖生物学研究室
小林一也 (内線3587 kobkyram@hirosaki-u.ac.jp)

共催：研究推進委員会 学部後援会